

子どもたちの未来の 森づくり事業



緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

にちようびの森～森で育つこどもたち

北海道帯広市



事業概要

多世代で誰もが気軽に集える森のコミュニティーセンターをめざし、活動を通じて森づくりへの関心を喚起し、担い手育成を行うこと。①あそびの森のあしあとづくり;木こり体験やチョウセンゴヨウ、オオアワダチソウの駆除等の森の手入れ、薪割り、フィールド内の地図づくりや自然観察など。作業もあそびの一環として楽しめるような工夫と、参加者が何をするか、どう過ごすかを自由に選べる形態にこだわって実施。②はぐくーむ秋まつり参画;森の素材を使ったの楽器づくり。

事業成果

帯広の森の拠点施設はぐくーむとの協働により、市の広報等を通じて広く市民に事業が周知され、森づくりへの関心が高められた。親子で参加することで、森に親しみをもち、楽しみながら森づくりや仲間づくりができた。馬といっしょに伐倒・除伐などの森づくり作業を行うことで景観

が整ってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・幅広い年齢層が森づくりに携わり持続的な取り組みとなっている。作業を遊びや学びのきっかけととらえ展開される活動は私たちにも気づきが多くとても参考になった。今後の課題は参加者(ボランティア)が継続して集う仕組みづくりと中核メンバーの育成だと考える。(帯広の森・はぐくーむ)

参加者の声

- ・間近で見た馬の大きさ、木を引く姿の迫力、セミの抜け殻が金色でとてもきれいだった。発見がいっぱいの、初めての森でした。(30代母親)
- ・お友だちとミミズ探しや車の荷台に乗って作業したり、根っこ掘りをして長さを競ったことが特に楽しかった。(小学6年)



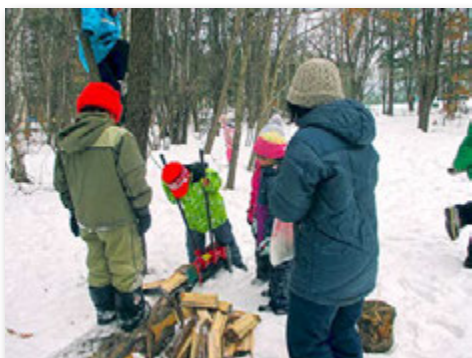
楽器づくり



木こり体験



「馬といっしょに森づくり」



薪割り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
下刈面積：0.2ha
間伐面積：4.1ha
馬による搬出：4.1ha
道づくり：100m
つる切り：0.1ha

参加者数

道内：416人
計：416人

こまおかの森げんきづくり事業

札幌市南区



事業概要

目的は、子どもたちが緑を愛する健全な心身を養い、社会のために役立つ自主的な活動を行うことで、自然物への愛着が深まり、自然愛護の心情を養うことである。また、地域の方との活動を通して、子どもたちの活動を地域へ発信することである。さらには子どもたちの体力強化、健康増進にも効果を期待している。主な活動は、学校裏に隣接する「学校林」で、樹木や植物、野鳥、虫の観察を行う。その他に森の学習会、植樹体験、育樹体験、巣箱はずし、巣箱かけ、マイツリー活動、ツリークライミング、ネイチャーゲームなどの自然体験活動である。

事業成果

児童が自然体験的な学習を通して、学校林を有する自分の学校への愛着をもつことができた。

また、学校林での体験活動や学習活動を通じて、動植物の生態に興味・関心もち、学びを深め、自然とつながろうとする意欲をもつことができた。

地域の方や保護者との交流が生まれ、自然体験活動を通して豊かな人間性が育まれるとともにコミュニケーション力が養われた。

事業をよく知る関係者の声

- ・様々な体験を通じて、楽しみながら学びを深める学習活動が素晴らしい。継続して取り組むことが児童と自然をつなげることになる。

参加者の声

- ・ツリークライミングは来年もぜひやりたい、一番大好きな学習。(小学生)



生き物観察



ツリークライミング



森林整備



巣箱かけ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1ha
除伐面積：1ha
間伐面積：1ha

参加者数

道内：22人
計：22人

子どもと馬を中心にしたコミュニティによる森林整備及び森林環境教育事業

北海道苫小牧市



事業概要

地域の小学生とともに、なるべく化石燃料を使わず馬を活用した整備作業を通して、子どもたちへの森林環境教育活動の推進と、北海道的里山モデルの構築をめざす。そのために、かつて「森のようちえん」に参加していた小学生を対象に行っている放課後体験活動「森っこアフタースクール」と連携し、馬による森林整備をからめた森林環境教育活動を提供した。また、かつての「森っこアフタースクール」参加者をボランティアとして募集し、活動に協力してもらった。土日を活用し、保護者も参加できるイベント「森っこホリデー」を実施。

事業成果

ボランティアスタッフが加わったことで、安全管理能力が向上し、馬を使った整備活動にも子どもが少しずつ関わられるようになった。対象地が幼稚園の敷地であるため、同様の取り組みをしたいと視察があり同様の活動が実施され

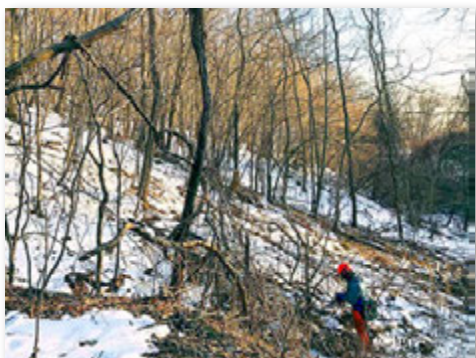
るようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 専門家や卒園した子どもの保護者が手入れをしてくれることは、本当に有意義でありありがたい。今の園児たちにとっては「憧れ」になるからです。このように、幼稚園という一つの場が、森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに大きな意義を感じている。(ひかりの国幼稚園園長)

参加者の声

- ・ 活動現場を見た瞬間、「これはうちでもやる」とすぐに決めた。少しずつだがノウハウや経験を積み重ね、当園でも少しでも早いうちに実施できる体制をつくりたい。(浦河フレンドようちえん園長)
- ・ OBとして関わられていることにとても嬉しさを感じている。かつての自分を「こんなふう楽しんだ」と振り返るいい機会になっている。(高校生ボランティア)



危険木の伐採（専門家による）



薪割り



馬搬



子どもたちが柵張りなどを行う

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.5ha
 間伐面積：6ha
 親子イベント：2回

参加者数
 道内：538人
 計：538人

ふるさとの森・遊びの森作り事業

北海道恵庭市



事業概要

失われていく自然環境の保護と、自然の中の厳しさや五感を生かした保育の充実を主として活動を行う。主な活動は、市内幼稚園、保育園、こども園の自然体験活動の利用、市内学童の放課後育成事業における自然体験、市民への自由開放を行う。

事業成果

森を生かした、教育・保育については6年目となり年々森と子どもたちの結びつき、カリキュラムが増し、子どもたちにより良い環境教育を提供できている。

事業をよく知る関係者の声

・森林における環境学習を行うことで、子どもののびのびとした成長と自信をもって様々なことにチャレンジできるようになった。(保護者)

参加者の声

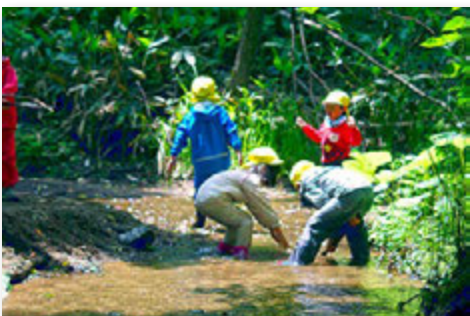
・森の生き物や虫のことがくわしくなった。(園児5歳)
 ・子どもも大人も森林の中で活動することで公園遊びとは違う感性で遊びを広げ、家族との関わりも良い変化をもたらしてくれた。(保護者ボランティア)



北清の森（幼稚園森の活動）



北清の森（小学生森の活動）



川遊び



木工体験

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.2ha
 自然保育：28回
 野外活動：25回
 教育キャンプ：1回：

参加者数

道内：76人
 計：76人

「里山観察・間伐材でものづくり」まるごと体験ツアー

青森市



事業概要

森林体験や木工体験を組み合わせた新たな体験プログラムによって、家族や仲間が「森づくり」の大切さを楽しく学べる機会を提供しようとするもの。そのため、青森市浅虫において「里山観察・間伐材でものづくりまるごと体験ツアー」を開催。

「森林体験」、「ものづくり体験」、「バイキングの体験」、「温泉体験」、まさに、まるごと体験ツアーとなった。

本事業の趣旨と内容を青森市民に広く知ってもらうため、11月1日から3日間、青森市民美術展示館において「緑のめぐみ展」を開催。ビデオ放映や写真展示コーナー、木材や木の実を使った作品展示コーナー、ものづくり体験コーナーなどの内容で、入場者は282人であった。

事業成果

「森林体験」と「ものづくり体験」を同時体験したことによ

って、参加者は森と木の関係を感じたようだった。「間伐材を利用することが森づくりに繋がる」ということを認識できるきっかけとなると思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後、本イベントへの参加者増加が予想されており、その時の対応が課題となっている。参加者20人に対して一人のガイドが必要である。(あおもりクアガイド協会)

参加者の声

- ・身近にこんな素晴らしい自然があったなんて知らなかった。子どもたちにとっても夏休みの良い思い出となった。(保護者)
- ・市民にとって森林が親しみやすく身近な存在と感じられ良いイベントだ。(元公務員)



まるごと体験ツアー 森林体験



体験ツアー ものづくり体験



緑のめぐみ展



緑のめぐみ展 ものづくり体験

実績とりまとめ

作業内容

森林体験とものづくり体験
森林体験活動の報告とPR活動
ものづくり体験活動

参加者数

県内：386人
計：386人

三川長根の種まき桜保存事業

岩手県花巻市



事業概要

地域のシンボルとなっている花巻市指定文化財の「三川長根の種まき桜」の樹勢回復措置を図り未来に引き継ぐ。

事業成果

かなりの年数の経過したサクラの大木で、特殊伐採により枯損箇所を除去を行い、樹勢回復により未来に引き継ぐことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・適切に管理されており、景観維持にも協力をいただいている。今後も地域住民の管理によってサクラが守られていくと期待されている。

参加者の声

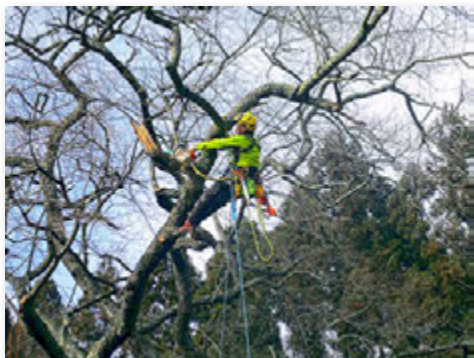
- ・特殊伐採を初めてみたが、細いロープを操り枝がしなって曲芸のような仕事だった。樹形がすっきりした。



薬剤散布



施肥



枯れ枝の伐採



三川長根の種まき桜

実績とりまとめ

作業内容

草刈り：0.4ha

刈り払い：0.1ha

参加者数

県内：21人

計：21人

地域全体で守る子どもの学び場事業

岩手県陸前高田市



事業概要

陸前高田市広田町に住む子どもたちが、自然のなかでのびのびと遊ぶきっかけをつくるための取り組み。主な活動は、週に一度会議を行い、企画を設計し、広田町において森の中で行う自然遊びの企画を実施する。

事業成果

7月から1月まで計5回の企画を実施。計21人の児童が参加。活動を楽しんでいる児童が多く、何度も参加する児童もいた。また、回数をこなすごとに当企画の存在が少しずつ広まり、町の住民の集りにて当企画の話が出たことがあることを確認した。当企画の作成に携わりたいと声をかけてくれる町の人もいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・この町は自然は豊かだが、一軒一軒が遠く児童数も少な

い。そのため、山や森は身近にありつつも、自然に触れ遊ぶという機会は少ない。自然で遊ぶこの企画は、正しい山での遊び方を理解しつつ、多様な経験を得られる活動である。(保育士)

- ・今後は、この企画がより高いレベルで継続的に行われるよう、参加する大学生の研修や参加する保護者へ、事業について、その目的を伝える機会などが必要ではないか。(記者)

参加者の声

- ・参加した子どもが一人で木や草で工作をするようになった。(保護者)
- ・より自然に溢れる木々や花を使った企画を工夫してほしい。(保護者)



親子で自然と触れ合う



木登りに挑戦



セミの抜け殻を探す



落ち葉を集め感触を楽しむ

実績とりまとめ

作業内容

自然遊びイベント：5回

参加者数

県内：21人

計：21人

夢と未来の森キッズ育成協働事業

宮城県利府町



事業概要

学校や子ども会が安心して自然体験活動を行うためには、見通しが良く、安全で安心できるフィールドづくりと、活動を主導する森のプロ団体の支援が必要である。

そこで、①学校や子ども会が活動しやすい近場でかつ駐車場が確保できる森林を安全にさまざまな自然体験を楽しめるレベルまで整備する。②安全でかつ魅力的な森づくり・自然体験プログラムを提案する。③経験豊富なスタッフを配置して、子どもたち安全に楽しく森のこと自然のことを体験しながら学べるイベントを実施し、森に行くことが普通のことになる地域づくり、社会づくりをめざした。

事業成果

整備されたフィールドは、地域の方々に広まり、散策などを楽しむ方々を常に見かけるようになった。夏には、虫かごと網を持って遊んでいる親子にもたくさん出会った。

確実に地域の自然体験の普及に貢献した事業であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・明るく素敵なフィールドができた。近年のクマの出没増加という面からも、このような整備はとても大切でありがたい。(県民の森管理事務所所長)
- ・近年心配になってきているナラ枯れ、マツ枯れ、ハチの巣の発生等を監視するという面からも、散策者が多い県有林を整備し、常に目を光らせてくれることはありがたい。(県森林整備課職員)

参加者の声

- ・クワを使うのがむずかしかったけど楽しかった。(小学4年男子)
- ・貴重な活動機会を与えてもらった。これからも継続していきたい。(小学校教員)



ヒノキ、ヤマボウシほかを植樹



遊歩道づくり



竹ベンチづくり



巣箱かけ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：92本
 下刈面積：1.72ha
 除伐面積：1.11ha
 間伐面積：0.1ha
 イベント：6回

参加者数

県内：699人
 県外：15人
 計：714人

樹種

ヒノキ、ヤマボウシほか

アウトドアで科学するサマーキャンプ実施とその指導者養成

仙台市青葉区



事業概要

スウェーデンで実施されているアウトドア教育プログラムを、宮城学院森のこども園の園庭や遊歩道を使って実施する。その実施に当たって、自然学校（キッツ森のようちえん）と県内の大学等の保育者養成校と連携して、アウトドア教育の指導者養成を行う。「サマーキャンプ」では、実際に、子ども・子育てに関わる大人が子どもたちと一緒に社会課題（自然環境保全など）の解決に取り組み、生涯学び続ける「持続可能な学び」を提供する。

事業成果

遊歩道の入口周辺の下刈を行うことで、大型のティピーテントを設置することができた。園庭とは違う起伏のある遊び場となっている。また、県緑化推進委員会と共催した記念講演会および記念植樹を行い、園児と教職員、本学学

生への森林体験活動を通じた学習機会を提供することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・県緑化推進委員会、森林インストラクターと大学の連携によって、園児と教職員・学生が一体となった緑化活動を行い、森林保全の啓蒙とその教育活動の必要性を感じた。（森林インストラクター）
- ・キッツ森のようちえんの指導者に協力いただき、子どもの遊び場、遊歩道の安全性の確保の難しさを感じた。（森のこども園園長）

参加者の声

- ・遊具やメディアから離れた生活の中で、自然との触れあいや人と関わる時間を持つことができるため、だれもが生き生きと過ごすことができると感じた。（大学生）



ササ刈



危険個所のロープ付け替え



階段整備



踏板の架け直し

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：10本
 下刈面積：0.08ha
 除伐面積：0.01ha
 作業道修理：500m
 生物調査：1回
 森林教室：1回

参加者数

県内：207人
 県外：15人
 計：222人

森での遊びを通した環境教育事業

宮城県白石市



事業概要

森で遊ぶ経験のない子どもが増えていることから、森での遊びや枝打ち、薪割り、木工品作りなど、自然に親しむ機会を提供する。当会の植林地（南蔵王）において、森の遊びや自然観察会を体験してもらう。

事業成果

森で遊ぶ体験や自然観察会は、参加者からの評判も良く、また来たいとの声を多数いただいた。また、交通手段の心配をせずに参加できたことを喜んでもらえた。森で遊ぶ経験のなかった子どもや大人が、初めての体験をすることが

できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の中には、他の自然観察会に参加したことのある方もいたが、今回の観察会を「とても楽しい」と語っていた。

参加者の声

- ・木の実を食べたり、葉っぱの質感の違いを触って確認したり、香りを楽しんだり、自然を五感で感じ深い呼吸をして心からリラックスできた。
- ・森の再生の話聞いて、木を育てる大変さを知った。



森で遊ぶ



木登り



ツリーハウス



ノコギリ体験

実績とりまとめ

作業内容
森の学び：1回
参加者数
県内：26人
計：26人

「そだてよう!どんぐりの森2019」プロジェクト

秋田県男鹿市



事業概要

自分たちの地域の木・林・森・山を、その地域の人たちが中心となって育てていく活動を通じて、自然の大切さ、自然との共生、自然環境の素晴らしさに気づききっかけづくりとして「どんぐりの森づくり」を位置付ける。そして、持続可能な自然環境を将来に引き継ぐことをねらいとし、どんぐり観察会や自然体験活動「どんぐりがっこう」を開催した。

事業成果

新たな活動フィールドでの「どんぐりがっこう」を定期的で開催できた。どんぐりの森の自然の営みや共に生きる生き物たちを観察しながら、どんぐりの生態系の役割や自然循環の仕組みを、見て触れて感じる、自然体験活動を定期的に開催し、持続可能な自然環境を将来に引き継いでいる。

事業をよく知る関係者の声

・幅広い年齢層の方々が参加している。いろんな世代や地

域の子どもたちがいっしょに、活動を通し、自然の営みにおけるどんぐりの役割を知る大切な機会になっている。季節とともに変化するどんぐりを観察しながら、森の役割や山と海とのつながり、環境対策などを五感で感じる質の高い自然体験を提供している。(自然体験及び動物ふれあい講師)

参加者の声

- ・どんぐりを観察したり、可愛い動物とふれあえ、今まで知らなかったこと教えてください。カシワで見つけたハチの巣は、つぼ形で不思議だなと思いました。(小学6年)
- ・自然とのふれあいは思春期の子ども達のことをまるごと受け入れてくれ、癒してくれるようです。どんぐりがっこうで、木に登ったり、野菜を収穫したり、動物のお世話をしたりできることが子ども達の自信に繋がっていると感じます。(保護者)



観察会



苗木の成長を確認



冬の森の観察



どんぐりの炭づくり

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.53ha
 どんぐり観察会：5回
 クラフト体験：6回
 どんぐりがっこう：6回

参加者数

県内：341人
 計：341人

子供たちへ繋ぐ森林の風

秋田県北秋田市



事業概要

身近にある里山をフィールドとして、幅広い世代が共に体験活動しながら地域の豊かな自然を大人から子どもに伝えるとともに、緑あふれるふるさとへの郷土愛を育む幼少期の原体験とする。

主な活動は、①親子での巣箱づくりと市有林内への巣箱設置、②秋田スギ伐採跡地への広葉樹苗木の植栽、③植樹会場の整備で生じた支障木を活用しての薪及び木蠟燭づくり。

事業成果

初めての企画で参加申込があるか心配したがスタッフ含め60人の参加があった。指導者や手伝いの方々の気配りで事故もなく楽しく作業できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後の植育実践は現地でやりましょう。(林業関係者)
- ・子どもたちが楽しんでいた。(市会議員)
- ・植樹活動に感謝、継続してほしい。(学識経験者)

参加者の声

- ・植樹や巣箱づくり・設置が初めてだったので、共通の思い出ができた。(親子参加者)
- ・子どもたちがこんなにもスコップを使える事に驚いた。(親子参加者)
- ・早く大きくなるようにと大きな声をかけたよ。(6歳男子)
- ・ヤマザクラは春に咲くかな?咲いて下さい。(7歳女子)



植樹会場の整備



歩道整備



ブナ、ナラ、クリ、サクラほかを植樹



巣箱かけ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
植付本数：221本
下刈面積：0.47ha
道路整備：800m

参加者数

県内：96人
計：96人

樹種

ブナ、ナラ、クリ、サクラ、コナラ、トチ

癒しの森作り

山形県米沢市



事業概要

マツ枯れでマツを伐採した跡地に森林再生事業を行い、将来はブナとユキツバキの群生地を実現し、近くの「大森山森林公園」と共に大公園とする。

ブナ植林地の下刈、地拵え、山道の整備、植林の準備(堆肥づくり)、親子記念ブナ苗植樹会を実施した。苗木は、ブナのほか、アベマキ、カシワ、カツラ、ケヤキも植樹した。

事業成果

これまでに植えたブナが3m以上に成長したものが多くなり、今までの苦勞が報われ、植林がますます楽しくなっ

てきた。13人の新会員が入り、活気づいている。

事業をよく知る関係者の声

- ・市内から植林しているところが見えるようになり市民から注目されている。児童、保護者、先生にもっとPRしたい。(米沢市民)

参加者の声

- ・スコップなどで穴掘り、堆肥入れ、苗植えなどを体験できた。木の成長が楽しみなので来年も参加したい。(小学生)



チェーンソーや刈払機のメンテナンスについて学ぶ



植林地の山道を草刈



親子記念ブナ苗植樹会



ブナ、ケヤキほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
 植付本数：150本
 下刈面積：2.5ha
 作業道整備：400m
 害虫調査：3回

参加者数

県内：118人
 計：118人

樹種

ブナ、ケヤキ、アベマキ、カシワ、カツラ

子ども達の自然体験活動フィールド整備事業

福島県いわき市



事業概要

子ども達が安全に気軽に里山で活動できる空間を整備し、森林ESDの役割の一部を担うことを目的として取り組むもので、2年計画の2年目である。

今年度は、①昨年試作した空中回廊の結果を踏まえて高さ1m10cm、長さ50mの空中回廊を製作、②伐木を利用し幼児が安全に木登りできるコーナーの製作、③幼児中心に12mの木製迷路の製作、④ハンモックの製作などを行った。

事業成果

当初計画した内容についての整備を終えたが、今後は活用していくなかで改善を図っていくことの必要性を実感できた。今年度も、国際ワークキャンプメンバーの若者に対して3回フィールド整備を行ってもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・フィールド内を公園のように整備しない方が良い。転倒して大怪我するようなものは除去したほうがよいが、できるだけ里山の自然が残る形を保つ方がよいと思う。(大学教授)

参加者の声

- ・遊歩道の安全通行のための柵を作った。タケの伐採を含めて初めての作業だったが、完成した形を見て本当にうれしかった。(20代女性)
- ・長さ5m以上のタケをノコで5本切ることができた。ノコを使うのもタケを切るのも初めてで大変だった。(小学生女子)



枯損木の伐採



下刈



小学生によるタケの伐採



完成した空中回廊

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：3.1ha
 除伐面積：3.5ha
 ササ刈り：0.5ha
 タケ伐採：1.1ha
 伐木処理：43日
 森林資源活用：20㎡
 空中回廊製作：25日

参加者数

県内：363人
 県外：94人
 計：457人

森林資源・環境を利用した地域の子供達の健全育成

茨城県筑西市



事業概要

森林環境の保全と子どもたちの健全育成をはかる。主な活動は以下のとおり。①雑木林の枯損木や不要木の伐採や下刈、②伐採した木を利用した木炭（竹炭を含む）づくり、③園児・児童・生徒の自然体験活動の支援、また市内の児童を対象にしたわんぱく自然塾やキャンプ。一般市民を対象にした植物観察会や野鳥観察会。総合的なイベントとしての「里山フェスティバル」や市民参加の落ち葉掻き「ふるさとの森を守ろう」を実施。刈払機やチェーンソーを取り扱う人を対象に安全教育講習会を実施する。

事業成果

「ふるさとの森を守ろう」（落ち葉掻き）では市内外の企業からの参加もあり、200人の参加があり、作業後に焼き芋を食べたり、薪割り体験や大鋸引きの体験などをして楽しんだ。伐木等の業務に関する関係法令の改正に伴い会員及び他の従事者に研修会をもった。ホタル再生については他

団体と交流を持ち指導を受けながら進めている。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後も多くの児童・生徒が学校の枠を越えて交流し、普段の生活では得ることのできない体験を通して、自然の大切さ、自然との共存について学び、成長してほしい。また、行政と市民の皆さんとのパートナーシップを大切に里山の保全という観点から、それぞれが協働の役割を担っていければ素晴らしい。（市教育長）

参加者の声

- ・一番心に残ったのは落ち葉はきをしたこと。最初は「大変だなあ」と思っていたが、落ち葉は自然にとっても大切な役割をしていることを知り、今ではたくさん落ち葉を集めている。（自然体験学習・小学6年）
- ・今まで作業していても気が付かないことが一杯あった。刈払機のメンテナンスは勉強になった。（安全教育講座受講者）



「ふるさとの森を守ろう」落ち葉掻き



「ふるさとの森を守ろう」ノコギリ体験



野鳥観察会



安全講習会

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：6ha
 森林資源活用：8回
 わんぱく自然塾：5回
 里山キャンプ：1回
 自然体験学習：5回
 秋の植物観察会：1回
 野鳥観察会：1回
 「ふるさとの森を守ろう」：1回
 安全講習会：4回

参加者数

県内：1501人
 県外：7人
 計：1508人

森林保全事業と子どもたちの支援

茨城県笠間市



事業概要

森と海の関係の重要性を理解し、森林保全の意義を伝え保全活動に関わる人を増やし、本会の活動を潤滑に広げていくことを目的とし、放置されている人工林を保全していく事で、豊かな広葉樹の混合する森へと移行させる活動をする。女性や子ども達も関わるといった方法を伝えるとともに、間伐した材を利活用し、自然環境に触れ作業をする。また、人間の本来の生きる力や知恵を学ぶ講演も行。地域の住民と繋がることで、安心安全な地域の森づくりの支援活動に貢献した。

事業成果

地域の住民から、暗くでは入れなかった森が明るくなった、若者が森に入る姿や、挨拶が気持ちよく見受けられた

など高評価をいただいている。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した活動のために、事業として本格的に計画し資金調達などを検討すべき。(地元木材事業所)
- ・首都圏の参加者を募集するための告知媒体を探したい。(東京在住参加者)

参加者の声

- ・普段人と話すのが苦手だが、森の活動では積極的に行動できる。引き続き参加したい。(支援センター指導員)
- ・子ども達が伸び伸びとしている、安全に指導いただけるので、普段使わないのこぎりやハンマーを使用できる良い機会でありがたい。(森の幼稚園・保護者)



間伐するスギの皮を剥ぐ



伐採



間伐材は板などに加工



森林教室

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：300本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：0.5ha
 間伐面積：1ha
 クラフト体験：24回
 生物調査：3回
 森林教室：4回

参加者数

県内：125人
 計：125人

樹種

スギ

名久田川源流学びの森事業

群馬県高山村



事業概要

森林が7割を超える高山村に育った子どもたちは身近な里山にも入ることなく、森林・林業に関する知識はほとんどない状況にある。そこで、森の働き、水の大切さ、野生動物等の知識を体験を通して学ぶ森づくりを行っている。①源流地周辺の除伐、草刈り、水場保護、歩道の整備。②自然観察会。なお、春の自然観察会、林業作業の体験などは新型コロナウイルス感染予防対策として中止にして、村内の6年生全員に森の働きや森で遊びを学べるテキストを配布し、学校の図書館にも寄贈した。

事業成果

昨年整備した水源の森の整備活動を行い、地域で継続的に実施し維持する道筋が明確になった。

現地での森林学習は実施できなかったが、村内の6年生全員に副読本としても活用できる冊子を配布できたことで、村教育委員会にも活動の趣旨を理解してもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・郷土愛を育むために大変良い事業と思う。参加者の多少を気にしないで継続してもらいたい。事業実施が休日となるので、学校との連携が不可欠である。

参加者の声

- ・楽しかった。山の土が水を含むとは知らなかった。焼き芋が美味しかった。
- ・冊子はイラストが多く子どもたちに理解してもらいやすい。高山の自然に興味を持ってもらえるよう活用したい。



下刈



自然観察会



自然観察会



冊子贈呈

実績とりまとめ表

作業内容

除伐面積：0.7ha
冊子贈呈：30冊

参加者数

県内：29人
計：29人

第4回山の日記念「21世紀の森まつり」

群馬県沼田市



事業概要

新元号制定の節目の年に、地域の子どもたち（緑の少年団員）が植樹を体験し、植えた苗木の生長を見守りながら将来にわたり森林・林業の重要性や環境の保全について関心を深めるため、次の活動を行った。①天皇陛下御即位記念植樹、②同時開催の山の日記念「21世紀の森まつり」において、木工工作、浄化槽の仕組みや地球温暖化対策等の各種イベントによる森林・林業及び環境保全の体験や学習。

事業成果

森に親しむ機会が少ない子どもたちが、植樹体験により山や森や木の働きを知り、森林・林業の重要性を学習した。

記念植樹を契機に森林公園を訪れる機会が増えることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹体験は自分が植えた苗木の生長を見守り、将来にわたり継続して森林・林業や環境への関心が高まることが期待できる。(小学校校長)

参加者の声

- ・子どもたちと一緒に植樹したサクラの生長が楽しみ。(30代女性)
- ・10年後にサクラがどのようなになっているか楽しみ。(緑の少年団員女子)



オオヤマザクラを記念植樹（沼田市21世紀の森）



支柱と獣害防止ネット設置



木工体験



枝を削る

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.27ha
 植付本数：50本
 支柱設置：50本
 獣害防止ネット：40本
 その他：

参加者数

県内：111人
 計：111人

樹種

オオヤマザクラ

体験型学びの森づくり

群馬県桐生市



事業概要

整備されていない森に陽光を取り入れ昆虫がすめるよう、また里山の樹木や山野草が生息できる環境にする。そこで地域の子どもたちが四季折々の体験をし、五感を高め豊かな心を育てる場とする。主な活動は以下のとおり、①伸び放題になっている場所を下刈、②過密箇所の高木の枝下ろし、③昆虫が好む樹木・四季の花や紅葉を観察できる樹木・斜面の崩れを防ぐ樹木を植栽、④整備されていない斜面を子どもたちが安全に歩けるよう整備、⑤昔、近隣の里山で見られた山野の植え付け。

事業成果

ボランティアの方の意識・パワーが想像以上に高く、当初考えていたよりもはるかに多くの事を短時間で行うことができた。「子どもたちの作業ではこのくらいだろう」と考えていたものが見事に覆され、子どもたちの力に関心した。また、当初は子どもと保護者が参加してくれ、回を重ねるご

とに地域住民が参加してくれるようになり、この事業への興味が広がっていくのを感じた。植えた木が大きくなる様子や花が増えていく様子を想像するように伝え、「大人になっても見に来たい」、「そのためには放っておいてはいけない」、など子どもたち自身が考え発言する様子が見えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもと大人がいっしょに泥だらけになって活動することは、近年ほとんどない。貴重な機会だった。この環境を守っていけるよう、地域で協力してしっかりと管理していきたい。(地元住民)

参加者の声

- ・土は重たかったけど、がんばって運んだ。(幼稚園児女子)
- ・植樹をしてみたかったので、専門家に教えてもらいながらできてとても良かった。(保護者女性)
- ・子どものパワーに驚いた。子どもにとっても良い体験だった。(60代男性)



下刈



枝下ろしの見学



子どもたちも植樹のための穴を掘る



クヌギ、モミジ、ヤマザクラほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.13ha
植付本数：101本
下刈面積：0.25ha
除伐面積：0.25ha
間伐面積：0.25ha

参加者数

県内：226人
計：226人

樹種

クヌギ、モミジ、ヤマザクラ、ヤマブキ、アズマシャクナゲほか

生物多様性のある里山の森づくり

埼玉県寄居町



事業概要

人の手が入っていなかった里山を整備・再生し、その恩恵を学び守り育てる。あわせて生物多様性の保全に努める。主な活動は以下のとおり、①下刈、除伐、間伐等の森林整備、②間伐材を利用したコースター等の作製、③高校文化祭での森林活動の展示と普及活動、④現地の状況確認（台風19号による被害や枯損木の確認など）。

事業成果

文化祭では、例年のように現役高校生に活動をアピールできた。台風19号の被害のなか、安全に考慮してできる範囲で復旧作業を行った。それ以外は委託した。国土緑化推進機構発行のガイドラインを参考にして、コロナ禍における来年度以降の活動における注意点などを確認した。

事業をよく知る関係者の声

- ・今まで積み重ねてきた作業の成果が目に見え、困難なく歩ける範囲が広がった。(60代役員)
- ・広い敷地なので、ソーシャルディスタンスを保ちながら活動できることを確認できた。フェイスシールドや拡声器など、活動に欠かせない道具の整備もできた。(森林関係者)

参加者の声

- ・文化祭で森のことを知り参加した。森林浴できて爽快でした。(50代女性)
- ・フェイスシールドとメガネをいっしょに使うと、くもりが気になる。マスクで活動しても良いかも。(50代女性)



森林整備



ベンチの手入れ



活動参加者の皆さん



高校文化祭で活動を紹介

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.8ha
間伐面積：0.8ha
現地調査：1回

参加者数

県内：654人
計：654人

みんなで守ろう 育てよう!よしみ里山プロジェクト

埼玉県吉見町



事業概要

所有者の高齢化等で手入れ不足で荒廃した里山の保全とその活用、地域住民と共に行う森づくりを通じた森林ESD活動を行う。主な活動は以下のとおり。①活動目的の説明とレクチャー、②自生樹木の観察、③落ち葉溜めづくり、④保全活動、⑤楷木づくり・シイタケ菌打ち、⑤植樹、⑥木工クラフト、⑦樹幹ロープによる綱渡り遊びなど。

事業成果

2年目となる2019年度は「育てる」をテーマに、2018年植樹の果樹は数本枯れたため新たに追加し約40本18種を育てた。参加親子が活動の楽しさや意義を発信してくれ、新たな家族参加の広がりがある。地域の子どもたちの森づくり活動として認知が広がっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林の保全活動への関心があっても最初の参加はハード



落ち葉溜めづくり



シイタケ植苗



クリ、ミカン、クルミほかを植樹



伐採体験

ルが高い。家族単位での参加であれば、子どもを通じて会話も広がり、森づくりの現場を体験することで理解が深まることが予想されることから、よい機会と考える。(教員)

- ・保全地域と近くの観光資源をつなぐような新たな森の活用などは、森林環境税を活用した新たな試みが可能ではないか、今後検討して提案してほしい。(役場職員)

参加者の声

- ・一番楽しかったことは?と聞いたら、落ち葉掃き、と子どもが答えていて意外だった。(小学2年女子の保護者)
- ・自分では教えられないような森の知識を教えてもらって、子どもが興味をもっていたので良かった。(20代保護者)
- ・木を伐採した後の枝払いを、ノコギリを使いたい息子たちが熱中していた。(小学6年男子の保護者)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：20本
下刈面積：1.4ha
間伐面積：0.2ha
腐葉土作り：4回
自然観察：2回
クラフト：1回

参加者数

県内：90人
県外：6人
計：96人

樹種

クリ、ミカン、クルミ、ヤマボウシ、カキ、ピワ

市西小学校 百年桜の保護と環境学習

千葉県市原市



事業概要

小学校のシンボルツリーである百年桜(ソメイヨシノ)の樹勢回復を行うとともに小学生やPTA他が一体となり環境学習の実施や百年桜への注意・関心の喚起を行う。主な内容は次のとおり。百年桜の樹勢回復では、①テングス病罹病枝の除去と病害虫の観察・確認、②土壌改良、③根系調査と発根促進、根系伸長範囲の確保、④有害な地被植物の除去。環境学習では校内に70種を超える樹木があり、①百年桜や樹木の観察会、②樹名板づくりと設置、③枝葉のクラフト制作を実施した。

事業成果

百年桜の樹勢回復では緊急的な保全措置を実施することができ、今後の樹勢回復に効果を期待できる。環境学習では二面性があり、その一面は教師・生徒が自覚していなかった校内の樹木への関心の高まりであり、他の一面はこの

土地の風土からくる昆虫・両生類などへの子どもたちの親しみの深さを指導者が逆に知ったことである。

事業をよく知る関係者の声

- ・本校関係者は、百年桜を後の世代に残したいと思っている。サクラの保全と安全確保の見極めは切実な問題で、この両者を判断する仕組みが必要である。(PTA役員)
- ・百年桜の観察・治療を通じ、テングス病の他に穿孔性害虫2種を確認した。継続的な観察は欠かせない。(樹木医)

参加者の声

- ・連れて行った4歳の娘も仲間に入れてもらって、葉や実や花を渡してもらい楽しそうであった。(PTA会員)
- ・枝を切り落とす理由が分かった。(5年生)
- ・木の枝や葉のクラフトづくりは全員が参加できるイベントで大変良い。(教員)



環境学習(百年桜観察)



環境学習(樹名板設置)



テングス病の枝を除去



土壌改良

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：7回
下刈面積：1ha
除草作業：1回
環境学習：4回

参加者数

県内：365人
計：365人

わくわくした森で、たくさん学ぶ事業

千葉県袖ヶ浦市



事業概要

若い世代が普段経験することが難しい森林で過ごす機会をつくる。木もれ日や森を抜ける風、いろいろな生き物を見たり触れて、たくましい人間を育てることである。そのためには、安全に森に入れるように下刈をし、危険木は除去する。

事業成果

台風15号による倒木の処理は、無理をせず、危険なところは後回しにして、安全なフィールドでできることを行った。新型コロナに関しては、感染防止に努めながらイベン

トを開催し、室内に籠りがちな人に屋外で活動する機会を提供した。

事業をよく知る関係者の声

- ・下刈が大変なので、機械を使って効率をあげたい。イノシシが異常に増えて、道路を破壊したりしてるので、その対策も必要となる。(近所の農家)

参加者の声

- ・久しぶりに子どもが外で遊べて安心した。今日は森でゆっくりでき、とても気持ち良かった。(保護者)



台風被害の森を見学



生きもの探し



シイタケの植菌



自然体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：40本
 下刈面積：10ha
 間伐面積：3ha
 観察会ほか

参加者数

県内：67人
 県外：70人
 計：137人

樹種

マツ、クルミ

地域の子どもたちと自然のふれあいを支援する事業

千葉県柏市



事業概要

町の中で生きもの多様性を保つ下田の杜において、小学校等と協働して子ども達の情操・自然教育を支援し、地域に「緑のふるさとづくり」の心が育まれることをめざして、①「米作り体験」、②「四季の自然観察・虫とり体験」、③「自然を守り伝えるボランティア活動の周知・参加体験」等を継続的に行うと共に、④それらを行うスタッフの知識・能力向上、⑤安全かつ多様な自然観察環境の維持、⑥森林の生長に伴う危険木の除去などを実施してきた。

事業成果

自然観察会の運営、スタッフの知識・能力の向上にはこれまでも外部の指導者の協力を得てきた。2020年は新型コロナの感染対策により自粛する部分もあったが、2019年は予定通り指導者を招く事ができた。

事業をよく知る関係者の声

小学校の学年担当教員の声は、教科書だけでなく野外の自然と触れ合えることを評価する声が多かったが、単年度で担任を代わる事が多く校内で現地の自然情報を共有することが課題。校長先生からは全学年に対し一貫した自然のふれあい、他校との連携を目標とされる声もあった。

参加者の声

- ・自然を通じて子どもたちと学び合う喜びがある。分からない事は無理に教えず、学校で調べるよう指導する事が共通の課題。(スタッフ)
- ・植物や虫を見て触れることができて嬉しかった。(児童)
- ・下田の杜を保全し地域の人や次世代に伝えるにはどうしたら良いか考えていきたい。(中学生)



池の生きものの観察



ケヤキの幹周を図る



林内の下刈



マンサクの植樹

実績とりまとめ

作業内容

森林環境学習：12回
 里山講座：3回
 自主講座：3回
 草刈：0.3ha
 森の手入れ：1.0ha
 チップづくり：3回
 苗木植付：1回

樹種

ネコヤナギ、ユキヤナギ、マンサク、ロウバイ

歴史のある恩方の森で、地元の小学生へ体験学習

東京都八王子市



事業概要

聖パウロ学園高校の学校林である「パウロの森」をフィールドにした体験学習で、地元子どもたちが森の役割や自然の大切さなどを学び、それに相応しい安全な森づくりに継続的に取り組む。具体的にはパウロの森くらぶが森を整備し、恩方第1小学校・恩方第2小学校児童に対し4回の森林学習プログラムを企画・実施した。1年生「いろいろなはっぱをあつめて、すきなはっぱのえをかこう!」、2年生「落ち葉や木の実で作ろうクラフト」、3年生「森のたんけん隊」、4年生「間伐・玉切り体験」。

事業成果

昨年は4回のうち2回雨で、校舎内での授業になったが、子どもたちや先生方からは「森に行きたい」という声が多

く、本年から予定日が雨の際には予備日を設定してもらった。これにより4学年ともパウロの森で体験学習ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然に囲まれた地域だが、自然を学ぶ機会は、なかなかありません。短い時間の中、上手に子どもたちの興味を引き出してくださり感謝している。「自然の中で」という実体験の力は大きい。(副校長)

参加者の声

- ・パウロの森は新しい経験ができ、とても楽しいのでまた来たい。(子どもたち)
- ・子どもたちの笑顔が楽しみで毎年進んで関わりたいし予備日の設定がよかった。(スタッフ)



樹木の説明



植樹



葉っぱの工作



丸太切り

実績とりまとめ表

作業内容

体験授業：4回
パウロ学園文化祭：1回
森の整備：毎月2回

参加者数

都内：46人
都外：6人
計：52人

未来の子ども達においしい森をプレゼント

東京都檜原村



事業概要

山の中の放置された畑跡地に、樹液や枝葉・実をお茶等に利用できる樹種を植え、森の恵みを子どもたちが実感できるような、おいしい森をつくること。主な活動は以下のとおり。①畑の跡地に生えてきたススキやツルなど藪の処理、②歩道の再整備と新設、③苗木の植樹、④獣害を防ぐハイトシェルターの設置、⑤間伐したタケを用いたベンチの設置、⑥パンフレットの作成と配布。

事業成果

フィールド環境の状況からこれまで基本的に大人を対象としていた森だったが、事業を通じて小学生までを公募して受け入れるきっかけをつくることができた。また、新型コロナウイルスの流行により植樹を始める段階からは参加者を募集することができなかつたが、本事業をきっかけとして地域の福祉系NPOや林業会社と協力することができた。事業を通じて、部分的にはあるが都会に住む子ども

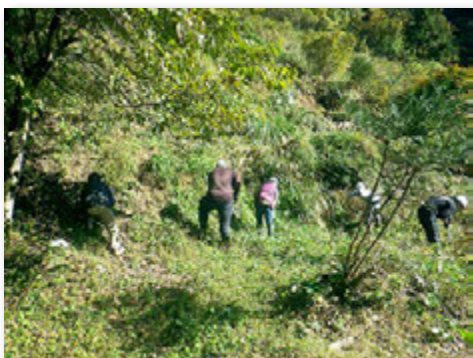
達に対して、里山に木を植えるためにはどのような活動が必要なのかを実際に体験してもらい、里山の荒廃地や持続可能な森林環境(使う・植える)について理解を深めてもらうことができた。活動ができなかつた植樹等については報告冊子をつくり、提供することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・経緯と事業をまとめたパンフレットを作成していただけたことが嬉しかった。今後の活動への関わり方もイメージしやすい。(小学校教員)
- ・校外活動等で植樹地を毎年訪れることで、森林や木を育てることを知る良い教材になる。(高校教員)

参加者の声

- ・森は少し遠い存在だったが、自分たちで藪を片付け、木を植えるための準備作業をすると、土や木がちょっと身近な存在と思えてきた。(30代保護者)



地拵え



クロモジ、イタヤカエデほかを植樹



竹林を間伐



道づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：50本
 獣害防止：50本
 間伐面積：0.01ha
 地拵面積：0.2ha
 作業道整備：200m
 森林資源活用：1脚
 イベント：8回

参加者数

都内：134人
 計：134人

樹種

クロモジ、シロモジ、ウリハダカエデ、ガマズミ、イタヤカエデ、ヤマボウシ、カシワなど

相模湖若者の森づくり、知足の森整備活動

神奈川県相模原市



事業概要

本事業で活動する森は相模原市内の民有林である。この森は放置されている状態が続き、また近年の台風大雨被害も多く受けており、森林整備だけでなく、土砂災害防止としても保全活動がさらに必要となっている。今年度は月2回の定例活動に加え、東海大高輪台高校SSH、相模原市小学校の総合学習、小学生向けの体験学校、小金井市公民館の若者向け講座の受け入れなど様々な若者や子どもが参加する体験活動を実施した。

事業成果

小金井市との連携が進み、公民館事業での間伐材活用イベント、森を1日体験する「森の居場所づくり」、相模原市律小学校への出前授業、2日間にわたる間伐体験を行え、また学芸大との連携が進み、アフタースクール活動であるEXPLAYGROUNDに参加する中学生25人の本格的な受け

入れが始まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・「こがねいの若者の森と居場所づくり」講座の2回目「力を合わせて森づくり 森林間伐の方法を学び、チームで間伐体験」を現地で開催した。ノコギリの使い方から、切る手順を、経験者が初心者に教え、講師は教え方を教えて、参加者にも教える役割があることで、自主性を育むように関わっていることが印象的だった。(小金井市公民館北分館担当者)

参加者の声

- ・森に入ると空気が一転し、その魅力に惹きつけられる感覚がある。何十年もかけて育った木々の中で耳を澄ますと動物の鳴き声、そして高く伸びた木の葉に積もった雪が落ちてくる光景も見られ、なんとも言えない安らぎを味わえた。(中学2年女子)



沢体験のため沢の整備



倒木の搬出



材として使えないものを薪に



伐採体験

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：1ha
体験イベント：5回
測量
センサーカメラ管理

参加者数

県内：74人
県外：165人
計：239人

故郷の里山再生および園芸文化の復活プロジェクト

新潟県三条市



事業概要

荒れた里山を整備し、かつて緑化造園木の生産地であった頃の姿を取り戻し、地元住民および一般外来客が気楽に散策できるような環境を創出し、地域の活性化に貢献するとともに観光資源の一翼たらしめる。主な活動は以下のとおり。①近年はびこっているモウソウチクの駆除、②豪雪によって折れたり倒れた木の伐採・撤去、③将来的に生産地の情景を創出するための支障木の伐採・撤去、④遊歩道からの景観を楽しめるように情景を塞ぐ樹木を撤去し休息スペースをつくる。

事業成果

支障木などの伐採によって、かつて見えていた新潟平野の向こう側の山並みが望めるようになった。遊歩道も鬱蒼とした不気味な雰囲気なくなり、明るい空間ができたことで子ども連れでも安心して歩ける環境ができたと思う。

事業をよく知る関係者の声

- ・里山整備後の山肌に段々畑跡が次々に現れた。かつて地区で盛んだった里山での植木生産の痕跡が見え、他の里山にはない故郷の里山の特性が見えやすくなった。
- ・樹木や草の除伐、残存に際して、空間、開花、結実、紅葉などの特性や将来形を予想しながら修景や造形意識を持って除間伐や枝打ち植栽をしている。今後、下刈などの管理が継続されると、造園職などによる里山整備の修景の意図や効果が年々現れる。このことが期待できる活動だ。

参加者の声

- ・バックホーやクレーン車などを駆使できない場所では、人力作業が多く大変だった。(60代男性)
- ・成果が目に見えてくると達成感がある。(60代男性)



支障木などの伐採



モウソウチクの伐採



植樹(ツツジ類)の準備



ミニ門松作り講習会

実績とりまとめ表

作業内容

植付本数：16本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.7ha
タケ伐採：0.3ha

参加者数

県内：88人
計：88人

樹種

ツツジ類

呉羽丘陵「学びの里山」づくりプロジェクト

富山市



事業概要

市街地に近い呉羽丘陵において、里山・生物多様性の成り立ちや仕組み、森が私たちに与える恩恵について理解を深めるための「学びの里山」づくりを行う。主な活動は以下のとおり。①事業場所の景観環境整備とビオトープ造成、及び自然歩道の整備、②大学生を対象とした合宿型ワークショップ、会員及び周辺住民を対象とした森林整備に関する学習会及び意見交換会、③里山活動におけるSDGs貢献との関連性の整理、本事業の情報発信。

事業成果

自然歩道を整備することで、子どもや高齢者など多くの方が安全に事業場所にアクセスできるようになった。また、ビオトープ造成を行うことで、ヘビの生息を確認し、トンボの産卵活動が見られるなど、生物多様性保全につなげることができた。ほかにも、学生の森林環境教育フィールド（自然案内、森林整備体験など）としても使用されることで、

参加者のさらなる広がりの可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

- ・かつての遊び場が多くの人の手によって復活し、いっしょに活動できることがうれしい。また、整備したところにたくさんの人が訪れてくれ達成感がある。(周辺住民・整備協力者)
- ・数年の整備活動で事業場所の景観環境が見違えるようになり感動した。(当会会員)

参加者の声

- ・整備した場所に多くのチョウが水を飲んでいる様子を見て感動した。(50代)
- ・階段づくりなどの森林整備体験は初めてで、また地域の方との交流が楽しかった。(20代大学生)
- ・たくさんの人が森林・里山とふれあい、つながることは意義のある活動だと思う。(20代大学生)



アクセス道の階段整備



竹林整備



生物水環境調査



看板設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：77本
下刈面積：1.0ha
除伐面積：0.5ha

参加者数

県内：64人
県外：35人
計：99人

樹種

クリ、カキ、イチジクほか

緑の里山保全の森づくり活動

富山県立山町



事業概要

植樹や草刈りなどの活動を通じ、市民や子どもたちに森林の役割や環境保護の大切さを伝える。主な内容は、①立山町天林地区の面積1.1haのフィールドにて下刈などの育樹活動、②植樹及び周辺樹木観察。

事業成果

現地で3年目の活動となり、初年度に植樹した苗木の成長を参加者が見届けることで自らの活動の成果を強く認識でき「活動継続のモチベーションが高まった」「次回は家族と一緒に参加したい」との声が多数あった。また、参加者の習熟により、より安全・迅速に作業を実施できた。

コロナ禍における活動の制限が緩和されたため、ボランティア参加者を会員企業の一部に限定し育樹作業(下刈)を実施した。また、日を改めてボーイスカウトによる補植と周辺樹木観察会を実施した。

工夫して活動を実施し、子どもたちに森林の役割や環境

保護の大切さを伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹により環境が良くなること、大勢の人が集いこの地区の良さを知ってもらうことは地元にとっても有意義。(地元自治会役員)
- ・有意義な活動であり会員企業にも参加を呼び掛けたい。(経済団体事務局員)

参加者の声

- ・以前に植えた木が大きくなってうれしかったし、森の大切さをあらためて感じた。(ボーイスカウトメンバー)
- ・草刈り機等の機材がもう少しあると、より作業がはかどるのではないか。(60代男性)
- ・今回初めて参加し非常に有意義だった。次回は家族と参加したい。(40代男性)



下刈



植樹



植樹には子どもたちも参加



植物観察会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.35ha
樹勢回復：600本
下刈面積：3.0ha

参加者数

県内：114人
計：114人

「ふるさと絆の森」再生事業

石川県小松市



事業概要

第66回全国植樹祭は2015年5月に石川県で開催され、記念植樹が小松市の「憩いの森」で行われた。植樹されたケヤキ、タブノキ、スダジイ、サカキ、アテなどは4年目を迎え順調に成長しているが、継続した保育が必要といえる。また、「憩いの森」に地域のシンボルとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。

また、輪島市金蔵地区には、美しい里山や棚田維持に不可欠な用水溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。

特に、この地区は「美しい日本の、歩きたくなる道500選」にも選ばれている「金蔵五ヶ寺を巡るみち」等の歴史的資源が残されており、世界農業遺産「能登の里山里海」の一翼を担うべく地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。

主な活動は、「憩いの森」①植樹区域の下刈、②植樹区域に隣接する雑木伐採により、ハイキングコースの景観改善。

「金蔵の里山保全」①休憩用東屋周辺の下刈、②集落に隣接する里山で学童による植樹体験区域の整備。

事業成果

金蔵の里山保全活動は、遠隔地につき宿泊して活動を行った。地元住民及び能登地区の会員の参加を得て、確実な一歩を踏み出すことができた。また、下刈機やチェーンソーの使用について、ベテラン会員による指導等を行うことで安全作業が行えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・昨年行った地域の学童による森林整備の見学会が好評だったので、継続を希望している。(憩いの森管理事務所員)

参加者の声

- ・地元の参加者が当会の活動を高く評価し、会に加入することとなった。(地元住民)



作業前の「憩いの森」



植樹地の整備作業



整備後



桜を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：20本
下刈面積：5.1ha
除伐面積：0.3ha

参加者数

県内：151人
計：151人

樹種

サクラ

みんなの家でみんなの森づくりプロジェクト

山梨県大月市



事業概要

本事業の拠点である「みんなの家」周辺には、手つかずの森林が多く残っている。この地域は高齢化が進み森林整備ができる人たちがいないためだ。そのため、地域の森林を守るとともに、都市部では体験することのできない森林での活動を通して自然との共生や重要性に気づくことを目的として活動を実施した。主な活動は以下のとおり。①幼児を対象としたキャンプを1泊2日で2回実施。②幼児を対象にしたデイキャンプを2回実施。③当法人ボランティアスタッフが行う森林整備を5回実施。

事業成果

近隣住民の協力のもと、本事業を通して自然の偉大さや自然と共生することの大切さに気付くことができた。また、大家さんからいただいた薪ストーブの設置により、森林整備で伐採した木々を有効利用することができるようになった。灯油などを使用することがほとんどなくなった。自分

たちが伐採した木が古民家の燃料として有効活用される循環型の生活に喜びと達成感を得た。

事業をよく知る関係者の声

- ・多くの子どもたちや若者が来てくれて活気にあふれている。定期的に来てくれ、森林整備を進めてくれることで獣害も減ってきた。(地元住民)
- ・この活動を通して、この地域が好きになり定住してくれる人が出るとうれしい。(地元住民)

参加者の声

- ・ノコギリがつかえたよ。木はとてもいいにおい。たからものにする。(幼児)
- ・ここに来ると元気が出る。森林整備や古民家により興味を持った。(60代男性ボランティアスタッフ)
- ・自然と一体化できる気がする。自然のありがたみを感じる。(30代女性ボランティアスタッフ)



自然と触れ合う



ノコギリ体験



草刈り



薪ストーブを設置

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.5ha
 除伐面積：2.5ha
 自然体験：4回
 森林整備：5回

参加者数

県内：5人
 県外：58人
 計：63人

閉校してもみんなの森はみんなで守ろうプロジェクト

岐阜県恵那市



事業概要

平成26年に閉校となった旧吉田小学校の校歌にも歌われ地域のシンボル「すわがね」(鶴岡山)の素晴らしさを後世に伝えるための活動を実施しながら、吉田地域の活性化をめざす。主な活動は以下のとおり。①登山道の整備と頂上の展望確保作業、②自然体験活動、③すわがね整備活動紹介、④受入環境整備(登山道マップの作成)。

事業成果

登山道やマップ、WEBページの整備ができ、受入体制を整えることができた。頂上の展望も確保され、すわがねを活用したレクリエーション活動や里山教育の展開が期待さ

れる。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林の整備や川とのふれあいを体験することは、子どもたちにとって緑の大切さや自然に対する思いやりの心を育てる意義ある活動だ。(地域自治会役員)

参加者の声

- ・お気に入りの場所になった。今後も積極的に活動に参加したい。(70代男性)
- ・自然とふれあえる機会が減少しているので、このような体験は子どもにとってもとても良いことだ。(40代女性)



吉田川探検隊



丸太切り大会



展望確保のための伐採



草刈り

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.6ha
 除伐面積：0.2ha
 間伐面積：0.1ha
 遊歩道整備：3km
 森林教育：1回
 自然体験：2回

参加者数

県内：805人
 計：805人

子どもたちの未来につなぐ諸井里山の森整備事業

静岡県袋井市



事業概要

「諸井里山の自然」は公園と森が一体になったエリアを形成している。管理は「諸井里山の自然と子どもたちを育む協議会」が行っている。近隣の小学生や親子が大勢集うこの場所を未来に継続させる。主な活動は、諸井里山の森の遊歩道の障害木や風倒木の伐採処理、公園入口の高枝伐採、記念植樹とPR用事業看板の設置。小学5年生69人を対象に木と触れ合うジャングルジムの組み立てや諸井里山での樹木探査も実施した。コロナ禍で学校の休校と重なったため、森林・林業を学ぶ座学は2回中止になった。

事業成果

森の整備が進み子どもたちが親子で、また小学校の活動で森に入りやすくなった。今回町場の森を対象にして、都市部の多くの生徒や協議会のメンバーに森林・林業を理解してもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ジャングルジムを組み立てた活動を通して木の丈夫さや面白さを存分に体験することができた。みなで協力して組み立てるというのも子どもにとってよい経験になった。里山の木々を調べる活動では、木への興味を示す子がさらに増えた。(小学校教員)

参加者の声

- ・たくさんの木の葉や切れ込みを調べ、色々な木を知ることができた。(小学5年)
- ・木は木であまり変わりはないと思っていたけれど、色々違いがあることを樹木医さんに教えてもらった。木に興味が出てくる学習だった。(小学5年)
- ・ジャングルジムを組み立てて、木が丈夫であることを知った。(小学5年)



寒桜を植樹



遊歩道の支障木伐採



ジャングルジムの組み立て



自然観察

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
下刈面積：0.6ha
除伐面積：0.1ha
自然観察：1回

参加者数

県内：27人
計：27人

樹種

サクラ

裾野市深良地区樹種転換事業

静岡県裾野市



事業概要

農業専用道路に隣接したスギ・ヒノキ皆伐に伴い、地域の活性化に繋がる他樹種への転換を行う。その内容として、

- ①当初計画では3月に近隣の中学卒業生に記念植樹をする予定だったが、緊急事態宣言下で実施を見送り。5月9日に親子植樹体験として、コロナウイルス対策をしたうえで実施。
- ②冬の花の少ない時期に咲くロウバイやウメを植樹。
- ③事前準備として、下刈、整地など等を実施（自己資金）。

事業成果

道路側まで未整備の林地が張り出し、歩道部分など少し暗い感じがしていたが、皆伐と樹種転換により光が燦々と歩道を明るくし、通学する中学生や散歩をする周辺住民から、とても気分よく通ることができると評価をいただいた。また、地域の親子が参加しての植樹作業で、コロナ禍で萎

縮していたが、参加することでとても楽しく、また環境や自然の大切さを学ぶいい機会となったと感想をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の皆様からも花が咲くのが楽しみねとお声かけただいており、地域の活性化の一助となれ喜ばしい。このような計画がまたあれば、協力していきたい。（興禅寺住職）

参加者の声

- ・初めて木を植えたが、根を傷つけないように大切に植えられて、とても楽しかった。自分の家の庭にも木を植えてみたい。（中学2年）
- ・子どもといっしょに参加できて、新型コロナで陰鬱な雰囲気の中、とても良い体験ができた。子どもたちに、自然や環境の大切さをもっと学んでほしい。（40代父親）



作業の説明



道路際に花の咲く木を植樹



親子でウメを植樹



獣害対策のネット設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.17ha
植付本数：170本
下刈面積：0.34ha
獣害対策ネット設置

参加者数

県内：49人
計：49人

樹種

ロウバイ、白梅

あさくら里山再生プロジェクト

愛知県知多市



事業概要

地域で唯一残された里山を整備し、地域住民の憩いの場とする。

主な活動は、年4回の草刈や竹林の伐採など里山整備事業を行う。子どもたちや地域の人々にオリエンテーリングなどに参加してもらい、気楽に遊んだり花見ができるような場所にする。

事業成果

新しい散歩道が整備できた。今までの散歩道も耐久性のある材料に交換することができ歩きやすくなった。頂上部に、周囲の景色にあったベンチが設置できた。

事業をよく知る関係者の声

・良く整備されてきた。反省点としては、草刈や剪定作業

を行う場合に植えた木や剪定してはいけない枝も切ってしまう事があったので、参加者に事前指導を徹底することが大切。

参加者の声

- ・今年の事業は本当に意義ある内容であった。来年度以降も積極的に参加する。(プロジェクト会員)
- ・まだまだ継続してやるべき事業は多くある。(プロジェクト会員)
- ・登りやすくなった、新しい森の道やベンチはすごくいい。(子ども)
- ・美しい枝垂れ桜や花木が見られ、ますます来たい場所になっている。(地域住民)



階段の整備



ベンチを設置



花木を植樹



樹木名案内の設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5本
下刈面積：1ha
間伐面積：0.2ha
遊歩道整備
ベンチ設置

参加者数

県内：175人
計：175人

わんぱく山いきいきランドづくり

愛知県新城市



事業概要

学校敷地内にある「わんぱく山」を整備し、植物や昆虫、水生生物を観察、学習できるように環境を整備し、地域の自然を知り、大切にしていこう子どもを育成していく。主な活動は以下のとおり。①学校林(わんぱく山)のクヌギやカシ等の成長を阻害しているヒノキやスギを伐採する。②地域の製材所において、伐採木を以後の活動の材料にする。③製材した材料を使い、イスやテーブルを作って校内の中庭に置く。④スギ・ヒノキを伐採した後の山にどんぐりを中心とした実がなる木を植樹したり、製材した板を使って樹木プレートを付けて、生活科や理科等の学習に使用できるようにする。

事業成果

活動を進める中で県の森林課や環境活動を推進する地元企業の協力を得られた。校内では、整備計画を「総合的な学習の時間」に組み込むことで、継続した活動ができる環境を

整えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹については、広葉樹を中心に植えることによって、生き物が集まりやすい環境になる。学校としてどのように森を活用したいかを明確にしながら活動を進めていくとよい。(植樹活動協力企業)
- ・毎年地域の山に出かけ、動植物について地域の専門家から学ぶ機会があるので、その植生をわんぱく山に再現することで、事前学習に生かせ、学習が深まるのではないかと。(地元の森づくり推進団体)

参加者の声

- ・生き物が集まったり、学校のみんが遊べるようにするにはどうすればよいかを話し合った。未来のわんぱく山がどうなるか楽しみになった。(小学6年女子)
- ・わんぱく山で切った木を使って、ベンチづくりをした。学校で育った木が役立ってうれしかった。(小学6年男子)



樹木の学習



クヌギ、コナラ、アベマキなどを植樹



ベンチづくり



巣箱づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：100本
 除伐面積：1.7ha
 作業道修理：100m
 クラフト体験：2回
 生物調査：1回
 森林教室：2回

樹種

コナラ、クヌギ、アベマキ

さかきばら森の公園わくわくプロジェクト

津市榊原町



事業概要

子どもたちが自然の中で遊び体験できるフィールドを地域の森林を借りて整備を行う。主な活動は、①フィールドの樹種調査、②枯れ木の伐木、風倒木の撤去、③竹林の整備、④森林整備作業などの安全指導。

事業成果

フィールドの多様性を知ることができた。間伐や風倒木を除去によって林内に適度な光が入り、安心して子どもたちがフィールドに入れるようになった。伐倒や枝払いなどチェンソーの指導を受けることができ、技術を習得することができた。

事業をよく知る関係者の声

・伐採したヒノキを現場で加工しウッドデッキをつくる事



樹種調査



風倒木の処理



タケをチップに



間伐材の運び出し(整備イベント)

は、子どもたちにとって素材～モノ造り～利用の流れが理解でき、良い経験になると思われる。適正な維持管理によって長期間を利用を願っている。(安全作業指導者)

参加者の声

- ・整備によって森がキレイになっていくのを感じると心地よさがあった。(40代男性)
- ・身近な森で、子どもたちが走り回る姿を見ることができて良かったし、遊具などがなくても自分たちで遊べることを探して楽しんでた。(30代女性)
- ・整備は大変だけど、誰かが手を加えないといけないと強く感じた。(40代男性)

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.2ha
風倒木整備：0.2ha
竹林整備：0.2ha
樹種調査

参加者数

県内：82人
計：82人

稀少蝶再生をめざす里山の土壌調査・改良及び育苗・植樹

三重県菰野町



事業概要

鈴鹿国定公園菰野富士の里山において、稀少蝶キリシマミドリシジミの食樹であるアカガシが自然災害や老木化等の原因で減少している。荒廃している里山を整備してアカガシを植樹して再生する。主な活動は以下のとおり。①植樹地の土壌調査、②土壌調査に基づき、植樹した樹木の生長を促進するための土壌改良、③鈴鹿国定公園内におけるアカガシの実生苗の採取及び自前の育苗棟における育苗、④植樹地及び周辺の荒れている雑木林の間伐・除伐・林床整備、シカ害防止用パッチディフェンス張り、⑤作業道づくり、⑥植樹祭(縮小開催)。

事業成果

アカガシ林再生をめざすための里山再生活動を本格実施した。NPO 森林の風が、荒廃した雑木林の間伐・除伐・道作りを主として実施しつつ、連携企業の社員が参加しての

森林体験会を数回行い参加者の拡大を達成した。植樹祭は、子どもたちが楽しみ学べる森づくりへの第一歩となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・町が推進している「菰野富士山麓里山づくりプロジェクト」の一環として、この事業を計画どおりに実行できことは喜ばしい。NPO 森林の風がもつ技術や知識に基づく活動は信頼できる。今後も企業との連携を大事にしつつ、財産区の意向も踏まえて事業を継続する予定である。(菰野町担当者)

参加者の声

- ・里山の荒廃が気になり講座を受けている。植樹祭に参加して、雑木林の整備・道づくりなどの多くの準備活動があったこと、連携企業や自治体との連携が上手く行われていることを知った。(まちのきこり人育成講座受講生)



アカガシ、クロモジほかを植樹



シカ害対策の柵



ノコギリでの間伐体験



道づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.06ha
 植付本数：175本
 除伐面積：1.55ha
 道づくり：1.0km
 土壌調査
 土壌改良

参加者数

県内：270人
 県外：20人
 計：290人

樹種

アカガシ、クロモジ、タムシバ、アカシデ、イロハモミジほか

文化的景観のまち菅浦の桜を守る

滋賀県長浜市



事業概要

奥琵琶湖には22kmに渡り3260本のサクラが植えられている。展望の良さもあり県内外から多くの来訪者がある。そのうち約8割のソメイヨシノに近年テングス病が蔓延し、樹勢の衰えが目立ってきているほか、台風被害の倒木も複数発生している。そこで樹勢の回復と景観維持を図るため治療と伐採ならびに桜守講座を開催し市民による剪定・施肥を実施。

事業成果

病気が気になっていたサクラの手入れ方法を学ぶことができた。参加者は地元住民のほか近隣地域の方の参加もあり情報交換もできた。住民での手入れが難しい場所については、樹木医の指導のもと、業者による剪定・伐採作業を行い改善が見られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年枯れ枝の除去などの保全整備に取り組んでおられることをお聞きし、サクラの花期を楽しみにしている者として、少しでもお手伝いできればと思い桜守講座に参加した。文化的景観でもあり、今後はこれをきっかけに多くの方に呼びかけて、研修を兼ねた保全整備を地元住民といっしょにできればと思う。(環境保全団体職員)

参加者の声

- ・桜並木の樹勢の良し悪しの見方を教えてもらい、大変参考になった。(40代女性)
- ・枯れ枝を取り払ったり、肥料をあげたら、木が喜んでいるように感じた。(30代男性)



桜守講座での実技



桜守講座



施肥



風倒木などを伐採

実績とりまとめ

作業内容

桜保全講習：1回
伐採・剪定：67本
施肥：1本
看板設置：1基

参加者数

県内：23人
県外：1人
計：24人

コバノミツバツツジを活かした学校林の環境整備

滋賀県湖南市



事業概要

菩提寺北小学校は山を切り開き1995年に開校した。開校前の敷地は、アカマツとともに春には山を赤紫に染めるコバノミツバツツジが咲く里山だった。しかし、校舎・校庭の平場が造成され、下の法面にはコバノミツバツツジが復活してきたがマツ枯れが進んで荒れた林となり、上の法面は低木の藪となり、地山は高木・常緑樹に覆われた。そこで、学校敷地の原風景を取り戻し、生物多様性を復元し、子どもたちの環境学習の場となるように、法面・地山に園路を設けて、コバノミツバツツジの里山を復元する。

事業成果

上の法面に、児童が安全に自然観察ができる園路をつかった。ホダ場を2倍に拡張した。4年生がフィールドビン

ゴをして学校林を観察し、園路の命名、案内版のデザインを考案し、それに沿って我々が案内板を2基つくった。

事業をよく知る関係者の声

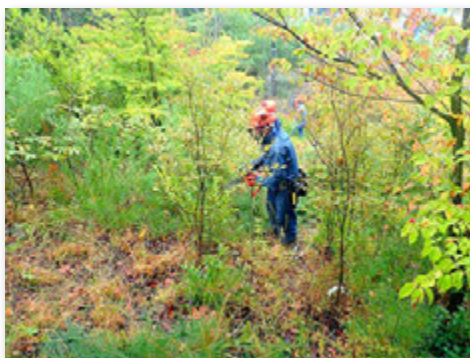
- ・教員、学校運営協議会の関係者、小学校ボランティアグループのメンバー、用務員の皆さんなどから感謝されている。小学校からは、授業とともに、予算のない中で、学校の環境整備に貢献していることを感謝されている。

参加者の声

- ・フィールドビンゴ、自分たちのアイデアを活かした案内板の除幕式、シイタケの菌打ちとホダ木をホダ場へ運ぶ等の活動や、できたシイタケを見て、児童は喜んで参加していた。



枯れたマツを伐採



下刈



看板の設置



フィールドビンゴ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.85ha
 枯れマツ除伐：14本
 コナラ伐採：3本
 シイタケ植菌：52本
 フィールドビンゴ：1回
 案内板設置：2基
 播種・鉢植替：650
 苗木山取り：60株

参加者数

県内：285人
 計：285人

樹種

コバノミツバツツジ

市民の森で舞え！未来の森の守り人

大阪府池田市



事業概要

大都市の北西部に残された里山で、「樹液樹の植樹活動や創作絵本の読み聞かせ会」を通して、未来の森の守り人を育成していく。主な活動は以下のとおり。①カブト虫&オオクワガタの樹液樹（クヌギ苗）の植樹、②地域自然の大切さを啓発するための創作絵本を発刊し、読み聞かせ活動を拡大すること、③これらの活動を行政や一般市民と協働して、推進していくこと。

事業成果

「ファミリーマート夢の掛け橋募金」「緑の募金」と記した大

きな看板を設置した事で、植樹場を通りかかる多くの市民の協働活動の参加（下刈りや施肥など）を得られるようになった。また、創作絵本も“読み聞かせ活用”のため、一般市民へのさらなる広がりを確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・27年間もの活動は、すべてが市民が知っています。（瀬島緑のセンター所長）

参加者の声

- ・私も息子も「クワガタ探検隊」で楽しく活動しました。



植樹祭の看板



植樹祭の看板



創作絵本



絵本の贈呈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
 植付本数：16本
 樹勢回復：14本
 下刈面積：0.6ha
 除伐面積：0.1ha

参加者数

府内：74人
 府外：33人
 計：107人

樹種

クヌギ

雌岡山梅林の管理・整備・育成及び環境保全

神戸市西区



事業概要

阪神淡路大震災以後、放置され荒廃していた雌岡山市民公園の梅林を整備し、市民の憩いの場と子どもたちが自然の大切さを学ぶステージ形成に努めた。主な活動は以下のとおり。①下刈、倒木の除去、樹木の剪定整枝、遊歩道の整備、施肥。安心、安全に過ごせる憩いの場、教育の場の設営。②来訪者への森林の大切さの説明、交流。③子どもたちの環境学習との触合いの機会を与える、④梅見食事会、梅実収穫祭の開催などで一般来訪者や子どもたちとの交流。

事業成果

子どもたちへの教育・指導する機会が増えた。広報活動の活発化と各種団体と積極的に交流や接触を行い来訪者も一段と増え、雌岡山梅林の知名度も上がり新規メンバー勧誘にも効果があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・草刈りの遅れた場所には応援して遅れを取りもどすなど、会員のチームワークが素晴らしい。(会員)
- ・綺麗に整備され、孫達を連れて来て安心して遊ばせている(雌岡山毎日登山会々員)
- ・近年ウメだけでなく、サクラ、アジサイ、ヒマワリ、コスモスなど四季の花々で楽しめる。日頃の苦勞がうかがえる。(毎日登山会々員)
- ・素晴らしい環境で校外学習、ワーキングホリデーなど学習の場として活用できる。(中学校教員)

参加者の声

- ・枝払いで眺望が広がってうれしい。(登山会メンバー)
- ・車椅子でウメの下まで来られ、触ったり、香りを楽しんだりできて嬉しかった。(女性)
- ・ウメの実がたくさん採れてうれしかった。来年も来る。(小学校5年)



下刈



支障木の除去



ウメの収穫



モミジの補植

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：10ha
 植付本数：6本
 樹勢回復：150本
 他団体との交流・支援：40回

参加者数

県内：293人
 計：293人

樹種

モミジ、サザンカ

憩いの場としての健全な、景観の良い森づくり

奈良市大和田町



事業概要

奈良市街地から県立矢田山自然公園へのハイキングコースに面したヒノキ人工林が過密状態になり、加えて雑木が混生している。これを改善し、憩いの場づくりをすると共に、地域の皆さんや他の森林ボランティア団体と一般の方、育児中の皆さんでつくる「アヒルの会」に参加していただき「森林活動と植樹のイベント」を開き森林整備の必要性を理解していただいた。内容は植樹、周囲の林相・景観を回復させた。

事業成果

傾斜地での作業だったが、安全指導を徹底、体験者には会員がサポートして無理のないような作業をして、次回の作業にも参加していただくようにした。チェーンソーの取り扱いも、参加者が興味を示すように見てもらった。幼児と母親のグループには、植樹の際に土に触れることに興味

を持ってもらうように取り組んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・見慣れた雑木林の整備であるが、10数年放置されたままのところをこれだけ繁茂することを知らされ、整備活動の大変さを知った。苗木の成長を維持することが、森林保全活動への参加意識向上につながる大切な活動である。(県有地管理者)

参加者の声

- ・植林地を放置しておく、こんなに密集して足元も見えなくなるものだと知った。(40代男性)
- ・これまで自然の中で遊ばせていた場所は、管理者が絶えず整備していたことを知った。植樹は良い体験だった。(30代母親)
- ・穴掘りとか土遊びができて楽しかった。(小学生)



作業は安全第一で



森林整備



イロハカエデの植樹



親子で参加

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.4ha
植付本数：30本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.3ha
丸太切体験：1回

参加者数

県内：214人
県外：7人
計：221人

樹種

イロハカエデ

みんなでつくるドングリの森林

鳥取市



事業概要

「森の教室」に参加した園児たちが育てた苗木を自分たちで植え、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていく。主な内容は、4月に「森の教室」に参加した鳥取市内の4保育園の167人がドングリから育てたコナラを森林公園に植樹。

事業成果

自分たちが育てた苗木を植樹し、今後の成長を見守ることで森林への興味を醸成することができた。

事業をよく知る関係者の声

・小さな苗木を小さな子どもたちが植える姿を通して、広

く自然の役割や緑の豊かさ、環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また「未来を植える事業」として今後も続けていただきたい。(森林公園指定管理責任者)

参加者の声

・子どもたちは貴重な体験ができました。「森の教室」で播いたドングリが芽を出し、苗木になるという一連の流れも子どもたちは知りました。苗木が10年後にはドングリを落とすと聞いて、見に行くのが楽しみです。子どもたちも少しずつ成長していく苗木を見に行くと思います。(保育園園長)



コナラの植樹



植樹には園児167人が参加



199本を植樹



園名板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：191本

参加者数

県内：199人

計：199人

樹種

コナラ

境港市竹内西緑地マツ林復元・整備事業

鳥取県境港市



事業概要

境港市竹内西緑地は、かつては白砂青松の砂浜であり、美しいマツ林であった。昭和53年頃より砂浜を埋め立て、竹内工業団地を造成し、その工業団地と住居地域の緩衝緑地としてこの緑地（マツ林）を設置した。しかし、30年以上経過し、緑地はすっかり荒れ果て、緑はあるが人も入れないくらいの雑木林となった。ここで、地区の住民を中心に、平成25年に「竹内マツ植樹隊」を結成し、かつてのマツ林を復元し、子孫に残そうと開墾・整備を始めた。現在、第7期整備事業で5.3haの雑木林を開墾・整備した。完成後は、地域住民の交流の場・憩いの場所として活用したい。

事業成果

整備事業も7年間継続し、地域の住民や自治会や団体へ

の認知度も上がり、完成後のマツ林の利用についての提案や意見を頂けるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・当初の状態を思えば、現在は見違えるようになった。今後は地域の人楽しく交流してもらえる場所づくりを考えてほしい。整備した跡地利用については、境港管理組合や境港市と相談しながら利活用を検討する。（地区自治会の役員）

参加者の声

- ・最初に植えたマツもずいぶん大きくなった。遊歩道も考えてください。（50代男性）
- ・来年も植樹祭参加したい。植えたサクラを見に来るよ。（小学生男子）



開墾



クロマツの植樹



サクラの植樹



下刈

実績とりまとめ

作業内容

開墾面積：1.4ha
 整備面積：1.4ha
 植付面積：1.4ha
 植付本数：1012本
 草刈面積：4.5ha

参加者数

県内：458人
 計：458人

樹種

クロマツ、サクラ

子供たちと竹が未来に仲良くできる森林づくり

松江市東出雲町



事業概要

繁茂したタケ藪を雑木林に再整備するとともに、子どもたちに竹林の様々な場面に出会うことのできる森として整備し、地元小学校5年生による観察会を行いタケの性質や里山のタケ問題について学習しタケに親んでもらうための竹皿づくり体験教室を行った。また、松江市環境フェスティバルに参加して、今回の里山保全についてパネルを展示し、活動の紹介とタケに親んでもらうための体験コーナータケ細工広場を開催。

事業成果

整備と普及啓発をセットで行ったため、地元小学校の5年生に通常ではなかなか見ることのできない竹林の様々な場面を見てもらう貴重な体験となった。整備された元タケ藪の周辺には、他の所有者のタケ藪が多くあり、今後もモデル林として学習の場を提供できる。また、雑木林への復活の過程も見学できる。作業ボランティア・フェスティバ

ル参加者・小学生と先生など200人以上に放置竹林の問題を知ってもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学生に「森林の大切さについて学ぶ」機会を、モデル的に竹林整備する事で分かりやすく提供する事ができ有意義だった。(NPO役員)
- ・市民会議には、意識の高いボランティアが多数おり、大量のタケの片づけも滞りなく行えた。(鳥根県森林インストラクター)

参加者の声

- ・体験を通して自然を大切にしたいと思った。(小学5年)
- ・タケが、3~4カ月で15m位になるのが不思議だったが、節の部分が全部同じ時に一気に伸びることが分かって良かった。(小学5年)
- ・環境の事も考えていきたいと思った。(60代男性)



竹林整備



歩道整備



森の学習



体験教室でタケ細工

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.3ha
 竹除伐面積：0.65ha
 森林学習と現地観察会：1回
 タケの学習と体験教室：1回

参加者数

県内：80人
 計：80人

みんなで育てよう伊部つながりの森整備事業

岡山県備前市



事業概要

「伊部つながりの森」は平成21年に(株)ティシーが森林所有者である伊部区有林管理会と協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。①平成25年に片上、伊部自治会及び(株)ティシーによる実行委員会を設立し、森林作業だけでなく体験学習に取り組んでいる。備前市内4小学校5年生児童が森林体験や森の役目について学び交流を通じて親睦を深めた。②「伊部つながりの森」の雨水による作業道の荒廃を防ぐため落蓋式U字溝を埋設した。

事業成果

これまでは参加児童数が多く、2回に分けて実施していたが、今年度は約100人だったので1回実施に変更した。つながりの森内の道の改良を行い改善することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・市内小学校児童による備前焼の燃料であるマツの植樹は松くい虫被害が広がった地区の山の再生に寄与している。また、つながりの森は岡山県環境学習エコツアーの登録地であり、県下には山があっても入って体験学習をする場所が少ないので貴重な場所である。実施日が平日のため手伝いが難しいが何らかの方法で協力したい。(ロータリークラブ員)

参加者の声

- ・参加した市長から、このような行事に市内全小学校が参加できるよう協力するとの言葉があった。



森林ガイドによる「森の役目」の講話



マツを植樹



シイタケの植菌



植樹地の下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：300本
 樹勢回復：30本
 下刈面積：0.5ha
 森林体験

参加者数

県内：305人
 計：305人

樹種

マツ

伊部区有林マツ再生事業

岡山県備前市



事業概要

備前焼の主燃料のアカマツは松くい虫の被害で壊滅状態のため、10年前から森林の再生に取り組み、緑の少年隊や地元小学校に参加を呼びかけて市民参加の森づくりを行っている。

事業成果

今年度は新型コロナウイルスのため植樹行事はできなかったが関係者で地拵えを行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽行事は平成28年度に緑の少年隊が中心に行い、東備

地域森林課の方よりマツ枯れの原因について講話があり、有意義な行事であった。今回もマツを植えるだけでなく同様のプログラムを計画していたが残念だった。4月になって植栽予定地の30m南に鎌倉時代末期の備前焼の窯跡が発見されて教育委員会が発掘調査をしている。当会としては植栽地を含めて遺跡公園化してレクリエーション活動の基地にしたい。(伊部区有林管理会員)

参加者の声

- ・看板設置時には備前焼窯跡発見は伝わっていなかったが、これまでの植栽地はシダ繁茂があり当分の間毎年の手入れが必要で、公園化も含めて継続事業としてはどうか。(地元区会役員)



地拵えのため枯れたマツなどを伐採



伐採後



看板の設置



古窯の見学会

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.1ha

参加者数

県内：7人

計：7人

緑の景観事業による里山創生

山口県周南市



事業概要

雑木（コナラ）の力を借り、店舗や事業所に「オシャレ感」ある植栽を地域全体に行う。地域全体の統一感を重視する事で、好感度やアピール度を高めるコナラの雑木×小熊笹×ベンチをセットに拡大。基本的に雑木は株立ちを植栽、あえて店舗や事業所入口に植栽する。

事業成果

今年は活動の節目でもあり、地域の児童といっしょに雑木の植栽を行う。地域に活動の波及効果を示すシンボル場所を完成。過去に植えた場所に木製ベンチを置いた事によ

る波及効果は大きい。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽事業も7年目を迎えている。当初から活動を追っているため、これまでの記録を編集し放映を考えている。将来はこの地での起業も考えている。（テレビ関係者）

参加者の声

- ・植樹とともに過去の資料も見せていただいたことで、活動の意義を理解できた。今後の取り組みにも期待したい。（小学校校長）



小学校に植樹



コナラ、コハウチワカエデを植樹



ササも植える



木製ベンチを設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：ha
植付本数：12本

参加者数

県内：8人
計：8人

樹種

コナラ、コハウチワカエデ

地元小学校を対象にした竹林体験学習サポート事業

山口県長門市



事業概要

放置竹林を適正に管理されたタケノコ生産竹林に整備することによって、竹林管理の必要性を地域住民に普及することを目的に活動している。地域住民を対象に研修会などを実施して、普及に努めてきたが、なかなか普及が進まないことから、地元小学校を対象にタケノコ掘り体験や竹林内での体験学習を行いながら、小学生を通して竹林を適正に管理する必要性を地域住民に普及する目的で竹林体験学習のサポート事業を実施している。

事業成果

班員が協力して伐竹・運搬した後、玉伐りして竹器と竹串をつくり、竹器は竹林内の薪で湯を沸かし煮沸消毒を行った。また囲炉裏に炭を熾して竹串にウインナーを刺して串焼きをしたり、学生が準備した汁を自分たちが作った器で昼食を楽しんだ。自然の薪で調理するのは初めての子どもばかりで驚きの連続のようだったが、自分で考え活動す

ることの力が芽生えたと感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・竹林体験学習で行うタケノコ掘りや竹林内での竹細工教室は子どもたちも楽しみにしている。合同で野外活動することは貴重な体験であり、大学生といっしょに活動することも新鮮な体験である。児童は、春先に重いクワを使ってタケノコを掘り取る活動を学生と一緒にやり、秋に再会してノコギリを使った竹の伐採に挑戦するなどしてタケの整備を学ぶほか、竹細工などを楽しみ、野外活動で力を身につけていると感じている。(小学校教員)

参加者の声

- ・タケを伐るときノコギリがうまく使えなかったが、みんながタケを押さえてくれて、協力して活動することの大切さを知った。(小学生)
- ・まっすぐに伐るためには、ノコギリをねじらないことを大学生から教わった。(小学生)



タケの伐採



タケの運び出し



タケの器で食事



門松づくり

実績とりまとめ

作業内容

竹林整備：0.3ha
体験学習サポート

参加者数

県内：100人
計：100人

子ども達に託せる美しい里山づくり事業

高知市春野町



事業概要

都市公園である春野総合運動公園の未整備自然林の竹木類の除伐採を実施するとともに、伐採後の林内には鑑賞木であるサクラやモミジの苗木を植樹し、子ども達に託せる美しい里山づくりの礎を築くことができた。また、秋と春に開催した植樹祭には地域住民や子ども達も参加し、森を守ることの大切さも実感してもらうことができた。

事業成果

林野庁の事業にて、放置状態だった自然林（約3ha）の除間伐整備を3年間に渡って実施。その成果として、未整備自然林が明るく様変わりすることとなってきた。今年度は、さらに本事業を活用することによって5年計画の初年度としての竹木の除伐整備（0.8ha）と鑑賞木の植樹（200株）を進めることができた。また、企業や行政の応援は元より地域

住民や子ども達の参加も得られるなど、大きな広がりも示してきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 荒廃林が見事なほどに明るく様変わりして感動している。植樹してもらったことによって、10年後や20年後の里山の姿にも想いを馳せることができる素晴らしい取り組みとなっており、今後は財団としても継続した整備に力を注いでいかなければ、と考えている。（高知県スポーツ振興財団理事長）

参加者の声

- ・ 植樹祭に参加させていただいて、その整備が如何に大変かということが分かった。美しい里山の景観を守るために頑張っているオンちゃん達の活動を伝えていけたらいいなと思った。（越知町地域おこし協力隊）



下刈



タケの伐採



サクラやモミジを植樹



木工体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
植付本数：200本
下刈面積：0.8ha
除伐面積：0.6ha

参加者数

県内：226人
計：226人

樹種

サクラ、モミジ

紙屋の里山等再生事業

宮崎県小林市



事業概要

紙屋小・中学校は森林に囲まれており学校林もすぐ近くにあるが、学校近辺の森林はタケが侵入したりスギの風倒木があるなど放置状態にあった。このため、紙屋地区の区長やボランティアなどで組織する「一徳協議会」と小・中学校のPTAほかが連携して、学校の近隣の森林の伐竹、広葉樹の除伐、スギ風倒木の除去、国際交流を兼ねた記念植樹などを実施した。

事業成果

紙屋地区内の賛同者が増えるとともに、弱酸性美容協会宮崎支部及び宮崎県緑化推進機構のOBで組織する「遊学の森ボランティア隊」に参加を求めたところ約60人が新たに参加した。

学校から離れた場所の里山の整備等を実施したことから、紙屋地区全体に浸透しつつあり、この活動が点から線になる弾みがつきつつある。

事業をよく知る関係者の声

- ・公道の除草の予算が減少している中で、地元の人がボランティアで活動の輪を拡げていることに、敬意を表する。(小林市)
- ・2年続けて除伐・伐竹してもらったおかげで見通しが良くなった。(寺住職)
- ・日が当たらず、やぶ蚊で悩まされていたので大変ありがたい。(地元住民)

参加者の声

- ・里山を手入れすることは、景観の向上、子どもの通学の安全に繋がる。(小学校校長)
- ・地域外の人が多く参加してもえると励みになる。(会員)
- ・地域外とガンボジアの女性今回たくさん集まった。地元の女性の参加も増やしたい。(婦人連会長)



風倒木やタケの伐採



整備された植樹地



サクラを植樹



国際交流をかねた記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：90本
 樹勢回復：300本
 下刈面積：1.2ha
 除伐面積：0.5ha
 間伐面積：0.1ha

参加者数

県内：392人
 県外：13人
 計：405人

樹種

サクラ

子どもとミツバチの森づくり活動

鹿児島県南九州市



事業概要

スギ人工林を混交林化し、子どもたちが森林体験学習の場として利用できるようにするとともに、ミツバチの来る豊かな森を造成する活動を行った。活動はスギ林分の間伐を行うとともに周囲の荒廃森林の地拵えを行い、養蜂に適した蜜源樹を植栽するとともに、歩道の開設や間伐材を使用したウッドデッキを設置して、子どもたちが森林内で遊び学ぶことのできる森としての整備を行った。

事業成果

今年度は昨年度の活動に加え、さらに面積の拡大と新たに歩道を新設し、森林活動の利便性の向上を図った。

事業をよく知る関係者の声

- ・馬事公苑跡地が毎年整備されて、多くの市民に利用されつつあり感謝している。南九州市としても活動に協力していきたい。(南九州市都市計画課森林管理者)

参加者の声

- ・このような森林環境教育はありがたい。今後はさらにスケジュール調整を図り、多くの児童が参加できるようにしたい。(児童クラブ育成会代表)
- ・多くの蜜源樹を会員の手で植樹できうれしい。(養蜂協会長)



ヤマザクラほかを植樹



間伐



荒廃地の地拵え・除伐



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：165本
 下刈面積：0.6ha
 間伐面積：0.2ha
 歩道づくり：40m
 ウッドデッキ：2基

参加者数

県内：56人
 計：56人

樹種

ヤマザクラほか

